



今昔 View

沖縄公庫が支援してきた様々な地域開発プロジェクトを、今と昔の写真対比により紹介します。

③工業団地

—中城湾港（新港地区）—



（写真提供：①② 沖縄県土木建築部港湾課、③ 新星出版）

HEADLINE WATCH

沖縄公庫HPのニュースリリースより、1つのヘッドラインを選んで読み解く HEADLINE WATCH。今回は「沖縄における若年雇用問題」に迫ります。

沖縄公庫では、沖縄国際大学経済学部の名嘉座元教授へ県内の若年雇用問題に関する寄稿を依頼し、同教授ご指導のもと、沖縄県内在住の20代・30代の男女に対してWebアンケートを併せて実施、350人から回答を得ました。

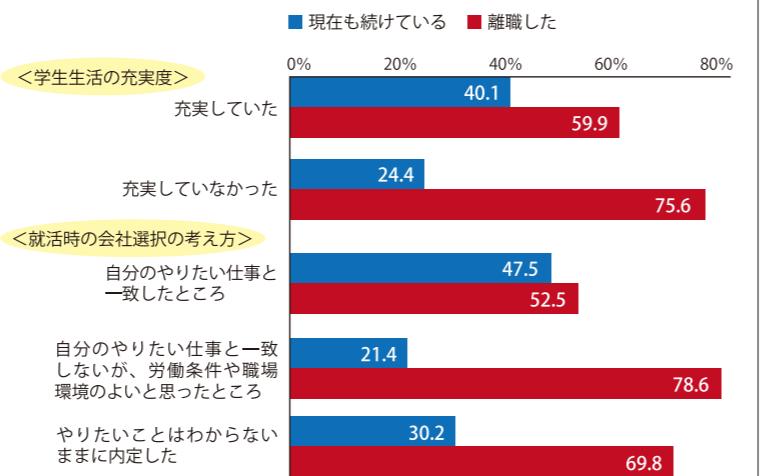
今回のアンケート結果から、高卒・大卒者の過半が初職（教育機関を卒業後初めて就く職）を離職しているものの、学生生活が充実し、自身の希望と就職先の仕事をよく検討して就職活動へ取り組んだ学生については、将来初職を離職する割合が低く、職場に比較的留まる傾向にあることが

うかがわれました。これは、企業内の労働環境や人材育成のあり方を見直す必要がある一方で、在学中に形成される就労意識が就職後の転職・離職意向にも影響することを示唆しています。

名嘉座教授によれば、教育機関のキャリア教育においてアクティブラーニング等を積極的に導入したり、高校・大学・企業の一貫した連携等を充実させることによって、①卒業後の移行期における入職ミスマッチの低減、②社会人離職の低減、③積極的に問題解決へ取り組む人材の供給が期待されると提言しています。

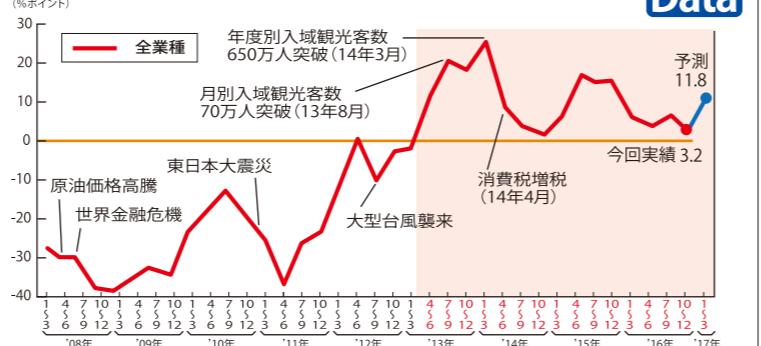
■初職の継続と学生生活の充実度及び就活時の会社選択の考え方（高卒者及び大卒者）

Jinbin Data



■業況判断D.I.の推移

Jinbin Data



景況 TREND

2017.01.13

県内企業景況調査結果
(2016年10~12月期実績、2017年1~3月期見通し)

“景況15期連続プラス”

リリース予定

2017.04
県内企業景況調査結果 (2017年1~3月期実績、2017年4~6月期見通し)
2016・2017年度設備投資計画調査結果 (2017年3月調査)

ニュースリリースの詳細は沖縄公庫HPをご覧下さい。<http://www.okinawakouko.go.jp/>

検索

人手欠き
猫の手借りたら
（効果絶大）
インバウンド
トラベル相場
旅客で弾む
（サツカー小僧）
指先で
トランプ相場
乱高下
切り札

橋
歌
人
—景
氣
川
柳—

編集後記

本号のJinbinSessionでは、多角的なご意見をいただきため、本紙初の鼎談（三者会談）を行いました。皆様にとって課題解決への糸口、さらに一歩先の情報となれば幸いであります。また、前号までの短歌に代わり本号から川柳を掲載しております。募集は随時行っておりますので、ぜひご応募ください。

次号は2017年10月発行予定です。皆様からのご意見・ご感想をお待ちしております。（さ）

川柳の応募・『橋歌』へのご意見・ご感想はコチラへ
rukaji@okinawakouko.go.jp

橋 船（ルカジ）沖縄公庫 広報紙

第3号 2017年4月発行

発 行：沖縄振興開発金融公庫
〒900-8520
沖縄県那覇市おもろまち1丁目2番26号
Tel.098-941-1740
<http://www.okinawakouko.go.jp/>



タイトルネーミングについて。

名護親方（程順則）の琉歌「橋船（るかじ）定みてど、船も走らしゆる…」より。アジア諸国の成長需要を取り込む新たなステージに入った沖縄経済。「万国津梁」再現への可能性が胎動する今、多様性に富んだ自立型経済モデルを構築する好機が到来しています。刻々と変わる時代へ漕ぎ進める道しるべ（橋船）として、政策（長期）金融機関として培ってきた洞察力で先見性のある情報を届けたいとの思いを込めました。

沖縄公庫OB 比嘉正詔

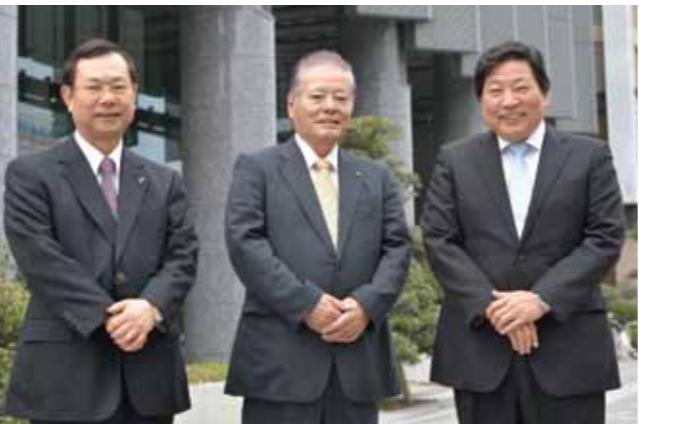
あしたへ漕ぎだす道しるべ

橋 船

ルカジ
第3号
2017.4

沖縄公庫 広報紙

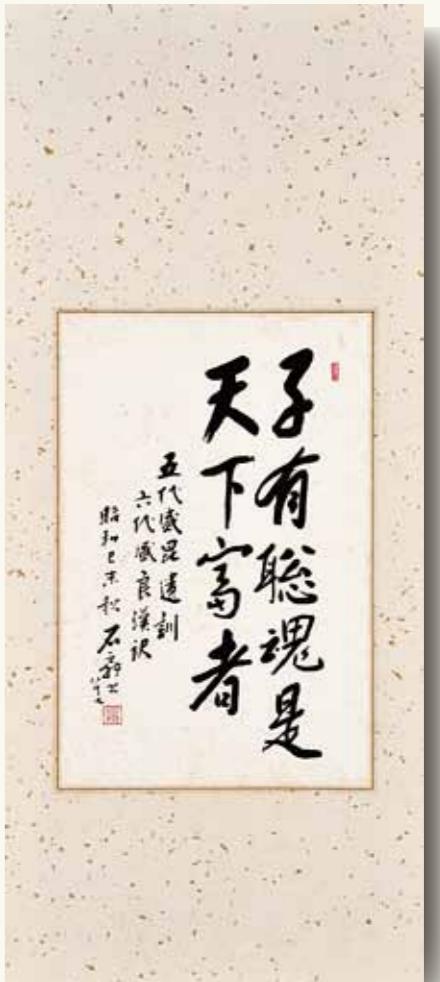
CONTENTS



This One 人・物・語

（株）宮の華 代表取締役社長

掛け軸 (揮毫・島袋光裕)



下地 さおり

p1 This One - 人・物・語 - 下地さおり

p2 Jinbin Session

p3 石嶺伝一郎 × 當山憲一 × 川上好久

（沖縄県商工会議所連合会会長）（沖縄県商工会連合会会長）（沖縄振興開発金融公庫理事長）

p4 今昔 View ③ 工業団地／中城湾港（新港地区）

HEADLINE WATCH

初職の継続と学生生活の充実度及び就活時の会社選択の考え方(高卒者及び大卒者)

景況 TREND “景況15期連続プラス”

櫛歌人／編集後記



「聰明な魂」を具象化すべく、昨年2月に制作されたロゴマーク。赤=酒造りに取り組むチームの魂、オレンジ=稲穂（農家の魂）、黄緑=大自然、ブルー=お酒。この4つがハートの形を織りなして創業者の説く「聰明な魂」を表す。「そこへ、ピンク=お酒の神様のエキスがボット、ボットと注がれるんです」（下地社長）

13年前、ガンを患った父（＝2代目の下地盛良氏。1942-2004）が、掛け軸を「これだからと私は渡してくれたんです。これにいつも原点を合わせやっていきなさい」と。すごくボロボロだったんですけど、父が表具師さんにお願いしてキレイにしてくれて。今は私のデスクのそばに掛けてあります。私がやろうとしていることって『聰明な魂』かな?』って、いつもの会社の心臓部なんですね。

私たちの会社の心臓部なんですね。中国の言葉で「聰明な魂で経営をしない」という意味のことが書かれていました。その「聰明な魂」というのが、永劫あってほしい。肉体はなくなつていて、モノもなくなつていく、でも心だけは無くさずに継いでいきたい」と話したら、島袋先生が「盛毘さん、あなたの思いはこれにあるんだ」と言って、この書を書いてくれたそうです。

中国の言葉で「聰明な魂で経営をしない」という意味のことが書かれていました。その「聰明な魂」というのが、

心であれば「誠実な心？」と思つたりもするんで

すけれども「聰明な魂」ときたので…今、私は「宮の華」の代表をさせてもらっていますがすごく漠然として難しいです。私の中でまだ腑に落ちていないんですね。私は、人生つて毎日が「魂の修行」だと思っていましたが、本当に照らし合わせているんです。

心であれば「誠実な心？」と思つたりもするんで

すけれども「聰明な魂」ときたので…今、私は「宮の華」の代表をさせてもらっていますがすごく漠然として難しいです。私の中でまだ腑に落ちていないんですね。私は、人生つて毎日が「魂の修行」だと思っていましたが、本当に照らし合わせているんです。

人生は、毎日が魂の修行だと思っているんです。

PROFILE

しもじ・さおり

1969年8月、伊良部町生まれ。伊良部高校卒業後、那覇でエスティ業界に入職。92年、23歳で帰郷し僕宮の華入社。2004年6月、2代目社長の父・盛良氏逝去により同年8月、3代目社長に就任。06年より国産米による泡盛造りに着手。07年、熊本県産ヒノヒカリを100%使用した「琉球泡盛 うでいさんの酒」を発売。今年4月8日、うでいさんの酒を熟成させた10年古酒「通り池」を数量限定で発売する。

「聰明な魂」という掛け軸、すべてそこから来てます。どうやつたら私は上から流れれるお水、聰明な魂になれるのか。それを

日々の生活中で見つけたい。言動すべてが「聰明な魂」になれよう：毎日が魂の修行です。

「聰明な魂」という掛け軸、すべてそこから来てます。どうやつたら私は上から流れ

れるお水、聰明な魂になれるのか。それを

日々の生活中で見つけたい。言動すべてが「聰明な魂」になれよう：毎日が魂の修行です。

「聰明な魂」という掛け軸、すべてそこから来てます。どうやつたら私は上から流れ

れるお水、聰明な魂になれるのか。それを

日々の生活中で見つけたい。言動すべてが「聰明な魂」になれよう：毎日が魂の修行

です。（笑）帰つて来ると必ず合掌して：日本人なります。行つてまいりますって、これ絶対にやるん

で、八百万（やおよろず）の神様をとても大事にしたいと思っていて。

「聰明な魂」という掛け軸、すべてそこから来てます。どうやつたら私は上から流れ

れるお水、聰明な魂になれるのか。それを

日々の生活中で見つけたい。言動すべてが「聰明な魂」になれよう：毎日が魂の修行

です。（笑）帰つて来ると必ず合掌して：日本人なります。行つてまいりますって、これ絶対にやるん

で、八百万（やおよろず）の神様をとても大事に

したいと思っていて。

「聰明な魂」という掛け軸、すべてそこから来てます。どうやつたら私は上から流れ

れるお水、聰明な魂になれるのか。それを

日々の生活中で見つけたい。言動すべてが「聰明な魂」になれよう：毎日が魂の修行

です。（笑）帰つて来ると必ず合掌して：日本人なります。行つてまいります

Jinbun Session

じんぶんせつしょん

知恵、知見を意味する「ジンブン」。Jinbun Session では、沖縄が自立型経済モデルを構築するための道しるべを探るため、斯界のビジネスパーソンを招いてのセッションを紹介します。第3回のテーマは「沖縄県の中小・小規模企業を取り巻く現状と展望」。中小・小規模企業への経営支援や地域活性化に取り組まれている、沖縄県商工会議所連合会の石嶺伝一郎会長と沖縄県商工会連合会の當山憲一会長にお話を伺いました。

好調な県経済／幅広い波及が課題

川上 最近の沖縄経済の特徴としては、観光・建設が牽引する波及効果が、卸小売・運輸・製造業にも及んでいる印象があります。これまでの景気拡大期と比較しますと、観光地としてリゾート分野が一段と存在感を増し、宮古・石垣などの離島地域に本島以上の活気があることも県経済の新しいステージを予感させます。

一方で県内全域、全産業分野が恩恵を受けているわけでもないという実態も聞かれます。そのような現状や沖縄経済の展望などについてお聞かせいただければと思っています。

石嶺 県内への入域観光客数が4年連続で過去最高を更新して861万人に達し、雇用環境も完全失業率、有効求人倍率が着実に改善するなど、沖縄経済は基幹産業の観光を中心にお好調さを維持していると感じています。2017年についても、国内景気や労働需給逼迫など注視すべきところはあります、全体としては引き続き拡大基調を維持するものと考えています。

一方で、県中小企業団体中央会による県内中小企業の景況感を見ると、全業種平均で18ヵ月連続マイナスとなっています。建設、鉄鋼など好調な業種もありますが、一部の製造、卸売業、商店街などはマイナスという状況です。県内企業の99.9%は中小・小規模企業ですから、沖縄経済が好調という現状に浮かれることなく、沖縄の産業と雇用を支える中小・小規模企業にまで経済の好調さがしっかりと行き渡り、沖縄経済の全体的な底上げにつながるような施策を講じることが重要であると考えています。

當山 県内の商工会員についても、好調な国内外からの観光需要にリードされ、景況感は堅調に推移していると感じられます。建設業に関しても、さまざまな民間事業が増えていると感じています。ただし、県内商工業者の約80%を占める小規模企業の経営環境は依然として厳しいという声も大きく、特に小さな離島をはじめとする町村部では好景気を肌で感じているとまでは言えないのが大方のところです。

川上 商工会が離島、僻地など地方部でも幅広く活動しているらしく、特徴的な動きはございますか。

當山 私ども34商工会のうち11カ所が離島地域に設置され、日々小規模企業などの皆さんを支援していますが、都市部への人口流出という構造的な課題に対処しながら事業を維持、成長させていくことは簡単なことではありません。業種の特徴としては特に観光関連業種が好調だといえますが、夏のシーズンが忙しく、冬の閑散期は仕事が少ないという状況は依然としてあります。国内外の旅行客は増加していますが、冬場の魅力的なプログラムを提供できていないところが大きな課題だと考えています。

他方、特産品製造業を中心とした製造メーカーの意識が少しずつ変わっていることが感じられます。具体的には、以前は沖縄の資源を活用したお菓子など、いいものを作つていれば売れるという意識、いわゆる「プロダクトアウト」の考え方を中心でしたが、最近では首都圏での商談会などを通じて、最終消費者に受け入れられる商品を提供していくという「マーケットイン」の考え方で小規模製造業者にも浸透して



沖縄振興開発金融公庫理事長
川上好久
かわかみ・よしひさ



沖縄県商工会議所連合会会長
石嶺伝一郎
いしみね・でんいちろう

については、インバウンドが立ち寄る観光・物販・飲食や交通インフラも含めてスピード感、スケール感をもった整備が必要だと思います。

ハード面では、将来的に1,500万人あるいは2,000万人規模の入域観光客を見据えたインフラ整備が必要ではないでしょうか。例えば那覇空港の第2滑走路の工事が2020年供用開始に向けて進行中ですが、完成後の着発回数は、ターミナル施設との関係で現状の1.3倍から1.4倍に止まる試算です。現状どおりで良いのかを含めて、中長期的に国・県・経済



沖縄県商工会連合会会長
當山憲一
とうやま・けんいち

で観光関連を含むほとんどの業種で人材確保が喫緊の経営課題としてクローズアップされています。また2025年には沖縄の人口がピークを迎えるという予測もあり、労働力確保は大きなテーマであろうと思いますかいかがでしょうか。

當山 人材不足は既に各地域で起きています。建設業界でも、建築ニーズはあるものの人材不足が要因で請負業者がなかなか見つからない。商工会地区の多くの働き手の少ない離島や町村部などいうこともあります。経営者にとって最も悩ましい課題で、何とか雇用できても継続しないというケースはよく耳にします。求人数が増加している現状では企業が選ばれる側ですから、労働環境をきちんと整備して人材を確保する競争が沖縄でも始まっていると思います。

特に小規模企業では、日々の忙しさから社員を守り育てるという意識を優先することがなかなかできないという現実もありますが、「家業」から「企業」に意識を進化させるお手伝いを私ども商工会ができるべきと思っています。その一例として、本部町では商工会が中心となって「本部町グッジョブ連携協議会」を立ち上げました。從来キャリア教育について受け身だった企業側が、町内の児童生徒に自らの仕事内容を伝えることで、将来の人材確保のために主体的に動き出している好事例です。また、企業側が児童生徒に対し自社の活動内容をPRして、町内にも素晴らしい企業が多く存在することを伝える「企業プレゼン大会」の事例もあります。これからは、少し距離のあった教育界と産業界をつなげていく仕組みが生まれます求められています。

川上 沖縄のような離島県では域外から的人材確保もままならないという事情もありますので、子どもたちに地域の企業を理解させる取り組みは、地道ながらも注目すべきだと思います。そのほか潜在的な域内人材の就労促進、あるいは県域外からの人材確保策等についてどのようにお考えでしょうか。

石嶺 企業の求人が増加している中、希望する業種や地域とのミスマッチも依然としてあり人手不足は深刻な状況にありますが、労働力確保についてはまず域内から行なうことが基本だと考えています。そのためには、地域企業の存在や業種の特性を知らないことによるミスマッチの状況を、インターンシップなどの手法を活用しながら改善していくこと、域内の女性労働力確保のために育休・産休・企業内保育所といった労働環境を企業努力と同時に行政側も支援を充実して整備する取り組みが重要です。また、域内の事情や業種特性をよく知るシルバー人材を活用する方法もあると思います。

他方で、首都圏の東京オリンピック需要を中心に国内も人材不足の状況にある中、県内の若者が県外に職を求める傾向にあるなど、国内からの労働力確保はなかなか難しく、外国人労働力の活用が避けられないのではないかでしょうか。アルバイトの場合、法的に就労時間の制限もあるようですが、外国人労働者を企業が採用しやすくなる仕組みが、今後、より求められるのではないかと思います。

川上 沖縄公庫が実施したホテル向けのアンケート調査では、人手不足への対応策として、兼務体制の見直し、シフト変え、機械化などのほかに、職場内保育所の充実も上がっています。沖縄公庫でも、職場内保育所の整備やひとり親家庭の親の雇用を促進するための特例制度を設けているところですが、やはり個々人の「働き方」に合わせた多様な対策が必要な時代ですね。

これまでの振興計画でかなりの基盤整備がされてきましたが、昨今の観光客の急速な増加や多様化を勘案すると、沖縄観光が国際競争力を有していくためには、各種インフラ整備の充実に加えて、それに関わる人的資源の育成などのソフト面の整備についても、きめ細かさとスピード感が重要だということですね。

労働力確保／取り組みと課題

川上 沖縄県による観光の雇用誘発効果(推計)では、この3年間で4.5万人増加となり大きな効果がありますが、他方

當山 恩納村はリゾートホテルが集中し、それぞれ多くの従業員を抱えていますので働きやすい環境整備には関心が高いと思います。例えば近隣の施設が連携して共同で保育所を運営する取り組みを整えれば、人材を確保し定着させるための有効な対策になる可能性があります。

沖縄経済の力強い成長に向けて

川上 県内の観光消費額のうち、インバウンドのシェアが20%を占めるに至っています。グローバル化の経済効果が非常に大きくなっている反面、国内外の社会経済情勢の動きに左右されることにも留意しておく必要があるかと思います。県経済が安定的にかつ力強く成長していくためには、どのような観点で取り組むべきなのか、ご意見をお聞かせください。

石嶺 基本的には、沖縄21世紀ビジョン基本計画に沿った5年間の施策の成果を踏まえた上で、今後の振興施策をしっかりと策定し着実に実施することだと思います。その中でもまずは人材育成が重要です。足下では、MRO(航空機整備)事業の沖縄での本格稼働に向けて、沖縄高専に開設された航空技術者プログラムに、航空会社が協力して学生を育成している取組事例があります。産業分野を問わず、産学官が一体となって沖縄に必要な人材を育て上げることが中長期的に必要なことで、すべての基盤だと私は思っています。

もう1つは、沖縄の島嶼性を踏まえた持続的な地域振興が重要であるということです。東西1,000km、南北400kmの広大な海域に島々が点在しており、移動・輸送コストのほか、住宅・医療・教育などの生活環境の厳しさをカバーしていく必要があります。

最後に、中小・小規模企業をしっかりと底上げする取り組みが不可欠で、沖縄の「真の自立型経済の構築・確立」のために、国・県・経済界が一体となって進めることが肝要です。

川上 人づくりの重要性はおっしゃるとおりだと思います。小・中学校の学力向上の取り組みや、経済界を交えた子供の貧困対策の取り組みも始まり、沖縄の経済社会が「人」こそが原動力だというような発想で展開を始めています。また離島振興の施策は、島々に暮らす人々の生活の不利性をいかに克服していくかに加え、沖縄観光の魅力の源泉のひとつが自然豊かで多様性を持つ島々であり、リーディング産業の一翼を担っているという観点からも重要でしょう。

ところで沖縄は、毎年のように襲来する台風被災等があるほか、小規模企業が大多数で過去の観光の低迷期などには、経営環境悪化への対応に苦慮するといったことがあります。このような状況をバックアップするため、公庫でも「セーフティネット機能」を迅速に発揮することが重要だと考えています。ご要望がありましたらお願いいたします。

當山 セーフティネットについては、例えば与那国町を襲った台風16、21号などの大規模自然災害の際にも、迅速に特別相談窓口を設置し、職員を派遣していただきました。また、経営環境の変化や取引企業の倒産によって、経営や資金繰りに影響が生じた場合についても、金融面の支援は事業継続の面や精神的な面からも事業者や地域の大きな助けとなっています。今後とも緊密な連携をよろしくお願いします。

川上 沖縄公庫は本土復帰の1972年に、沖縄振興三法の1つである「沖縄振興開発金融公庫法」に基づき設立されていますが、中小・小規模企業のセーフティネット機能は大きな役割の1つです。冒頭お話がありました通り、沖縄経済の自立的発展は中小・小規模企業の活性化なくしては成し得ないとこです。沖縄公庫は今後も全力でご支援をしてまいります。本日はお忙しい中、貴重なお話をいただき誠にありがとうございました。



中小・小規模企業が数多く出店する「沖縄産業まつり」(2012年)